

東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

発行責任者 柳 利夫

住所 東村山市萩山町5-6-26-301

Tel. 0423-92-8808

編集者 川村 英明

秋季テニス大会 を終って

武谷直也

恒例の秋季テニス大会も混合ダブルスを最後に、無事全日程を消化することが出来ました。技術部会で結果を振り返ってまとめましたので、以下その内容を報告します。

I. 参加状況等について

市民テの参加状況

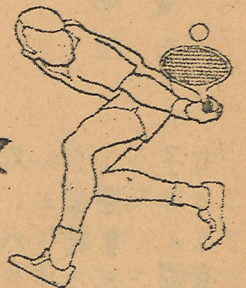
種 目	参加割合 (市民テ/全参加)	棄権率 (市民テ/全参加)
一般男子シングルス	18人 / 67人 27%	1人 / 5人 20%
一般男子ダブルス	13組 / 54組 24%	1組 / 8組 13%
女子シングルス	14人 / 34人 41%	4人 / 14人 29%
女子ダブルス	10組 / 31組 29%	1組 / 7組 14%
壮年シングルス	7人 / 13人 54%	棄権者なし
混合ダブルス	17組 / 38組 45%	2組 / 7組 29%

以上の結果を見たとき、市民テの参加状況は全種目とも高く、市民テは着実にテニス愛好者を増やしていることがわかります。特に壮年、女子シングルス、混合ダブルスがずば抜けて高いことは、主婦の生活にテニスが組み入れられてきていることを示していると思われまふ。壮年に至っては市民テオンパレードといったところです。

他方、棄権の方を見ますと、特に女子に多く見られます。これは当日ははっきりしない天気だったということはあるかもしれませんが、少々残念です。また棄権する旨の連絡が事前になかった人や時間に大幅に遅れた人が若干あったことは、今後充分注意を要するところです。この美では市民テだけではなく、他の参加者にも多く見られましたが、市民テが範を示そうではありませんか！

次に表(おもて)には出なかったのですが、ダブルスの場合のペアーの決め方に今後検討を要するところがありました。今迄は各自で相手を見つけることを原則とし、どうしても相手がみつけれないときは、幹事会で決めていました。しかし幹事会だけでは充分でないところから、今後は相手の固定していない人については技術部会で検討することになりました。そして日常的にもそのペアーでお互いに励まし合いながら練習に励むよう心掛けることにより、試合の成績も上がると思ひます。

市民テの成績
 男子S 二位 武谷
 女子S 優勝 木村、二位 藤野
 男子D 三位 長井・武谷
 女子D 優勝 木村・藤野、三位 下谷・栗原
 壮年S 三位 高瀬
 混合D 優勝 武谷・武谷



II. 試合の結果について

1. 男子シングルス

3回戦進出者 桂、増沢、桜井、山本、米田道、小林

藤井、佐藤

4回戦進出者 宮崎、則末、長谷川、河野

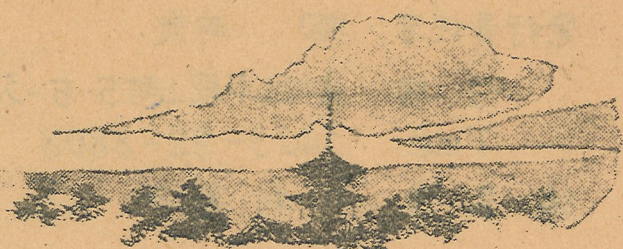
準々決勝進出者 長井

決勝進出 武谷

優勝 原田(一般) (6-0) 武谷(市民テ)

三位 松本(緑風荘) (6-4) 中村(日機菱) (7-6)

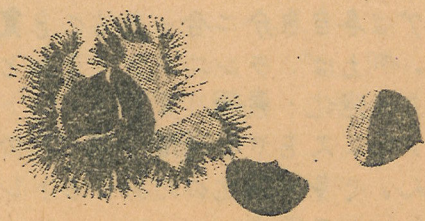
市民テ全体の成績を見ますと、普段シングルスをやれる機会がないにもかかわらずよく健闘したといえまふ。特に長谷川、河野はシード選手には敗れましたが、よく頑張ったといえます。ただ全体的に、優勝した原田、2回戦で石川に敗れた加家壁に典型的に見られるようなねばりに欠けていました。また配球についても、一本調子でゆさぶりが無いのでどうしてもこちらが先に走らされ、それがミスにつながるというケースが多く見られました。日常のグラウンドストロークの練習でよく左右への深いボールの打合いをしていますが、これ等はテニスの基本の一つです。よく練習しましょう。また試合になるとどうしても心理的な圧迫が加わります。これが体をかたくし、ボールを浅くする一つの原因となります。練習につぐ練習と共に試合に慣れることも必要になってきます。上記の市民テの成績や、全体の上位進出者を見ましても、矢張り上位進出者はテニス歴が長いということがいえます。今回2回戦、3回戦で敗れた諸氏もじっくり腰を落着けて練習に励むならば、先の見通しは決して暗くないと云えます。また若干の諸氏は試合の経験を積むだけでも相当伸びるだろうと思ひます。唯ラケットワークや戦術を含めたメンタルワークがいくら頭の中でわかっていても、フットワークが伴わないとそれらが生かされまふ。定期練習ではフットワークだけの練習はやっておりまふが、その基礎となる程度のトレーニングは各自自分に合ったものを実践して頂きたいと思ひます。例えば、ランニング・なわとび・ダッシュ・あわせて握力の強化・素振りなどはよいトレーニングになるでしょう。テニスをやる時間は週ほんの限られた時間しかありません。心身の強化のためにもトレーニングは是非心掛けるようにして下さい。



2. 女子シングルス

- 3回戦進出者 山口、柳、中根、下谷、小林
- 準々決勝進出者 栗原、福島
- 決勝進出者 藤野、木村
- 優勝 木村 (6-2, 2-6) 藤野
- 三位 鎌山 (ヨベル) (4-6, 6-4) 杉山 (一般)

女子シングルスは決勝を市民テで争う結果になりました。ことは大躍進ということが出来ます。他の方々につきましてもよく奮闘されました。はっきりしていることは、上位で奮闘された方々は皆非常に練習熱心だということです。テニス歴としては一般的感覚からしますとさほど長いとはいえないのに、この成績を残せたということはまさに練習熱心のたまものだろうと思われまふ。全体としては、杉山、三村の両高校生がよくふんばりました。特に杉山はキレイなテニスをしていましたが、まだまだボールの対処の仕方が一本調子でミス誘発していました。その奥三村の才はキレイとは言えないがよく走り、よくつないで善戦していました。初めての試合だとのことですがこの二人は今後楽しみです。それに比して市民テのテニスは必ずしもキレイとはいえない切れませんが、よくつなぎ、ねばっていたのが印象的です。木村については左右のボールのフリースメントが今日はよく、しかもフォアは一定のスピードもありこれが優勝への一つの要因であったと思われまふ。また日常の走り込みもボールへの接近時間を短縮でき、よく拾えた要因です。藤野もよく闘っていましたが強打の球が浮いてアウトすることが多く、結果的にゆるく返すということになり木村ペースからの脱却ができなかったことが敗因でしょう。バックはともかく、フォアについてはグリップに問題があるように思われまふ。男子も女子もそうですが、シングルスはコートカバリングが広いため、足腰の強化がどうしても必要です。それにベースラインからの打合いが主な戦術であるため、グランドストロークの安定が重要な要素になってきます。ベースラインをまたがずに打球するようなボールでエースを取ろうと考えるとどうしてもむずかしい所へボールをフリースメントしなければならなくなり、先にミスをするということになります。相手に取られないようなボールは、ベースラインからの場合は空きを作ってそこにフリースメントするようにすべきです。また、サービスラインあたりのボールのときは角度をつけて決めることも可能になりますが、それらのボール作りが今後の飛躍への課題となるでしょう。



3. 男子ダブルス

- 2回戦進出者 桜井・佐藤、藤岡・岩立
- 3回戦進出者 杉山・中村、笠野井・中根
- 宮崎・山本
- 準々決勝進出者 本保・増沢
- 準決勝進出者 長井・武谷
- 優勝 白石・石川 (0-6, 6-2) 福村・宝徳
- 三位 長井・武谷 (7-5, 5-7) 中野・監物

今まで市民テとして一度も優勝していないのがこの男子ダブルスです。今年もそれが果せなかったのは残念です。今年準決勝で長井・武谷組が白石・石川組に(1-6, 6-3, 5-7)で敗れましたが、十分勝機はありました。この試合だけではないのですが、男子ダブルスはやはりネットをどちらが早くとるかが重要です。そしてどのようにすればネットを早くとることが出来るのか、ネットを取ったあとの処理をどうするか、これが今後の課題です。前者については相手の弱点を攻める、滞空時間の長いボールをフリースメントする、それに機あらばネットに出ようとする心構え、これが大切でしょう。後者についてはボレーとスマッシュをもっともっと確実にすることです。それとダブルスはチームプレーですから、ペア同志の日常の練習が大切です。お互い自分の守備をわきまえ、コンビネーションよく試合が出来れば、そう穴は出来ないものです。従って相手は無理をしてきます。それがミスにつながるのです。技術部会としても今後ペアをある程度固定して練習するよう配慮していこうと考えています。ダブルスはシングルスよりも肉体的に楽です。この奥市民テ向きといえますが、試合経験と戦術がより一層重視されてきます。それだけ面白味も深まります。来春の大会に向けてがんばりましょう。



4. 女子ダブルス

- 2回戦進出者 福島・山口、河野・有川
- 上釜・小林
- 準々決勝進出者 下谷・栗原
- 決勝進出者 木村・藤野
- 優勝 木村・藤野 (6-2, 1-6, 6-4) 高橋・加藤(明乳)
- 三位 下谷・栗原 () 遠藤・関根(UI)

シングルスに比して1回戦で敗れた組が少々多かったのは残念ですが、優勝、三位とさうすることが出来ました。1回戦で敗れた原因は多々あるでしょうが、即席のペアだったのも一因といえます。女子ダブルスは現状ではやはり軟式弾型の試合が多くなります。そのため、つなぐ人、決める人(ボレーヤー)がうまく分業できるよう戦術を組み立てそれを実行することです。最近の練習でもネットマンの動きを注意してきていますが、これもその一つです。今後ベースラインプレーヤーのボールの配球、ネットマンの動き、レシーブのやり方など身につけていく練習をしたいと思います。また女子の場合特にペアのつくり方が大変重要になってきます。技術部会でも検討していきたいと思ひます。
(別紙その3へつづく)

(その2右下よりつづく)

5. 壮年シングルス

準々決勝進出	横山、半沢
準決勝進出	高瀬、中村
優勝	西条 (6-2 / 3-0) 堀沢
三位	高瀬 (7-5 / 3-6) 中村



西条以外は実力伯仲でしたが、堀沢がストロークカに一日の長が感じられました。市民テの場合米田以外は球歴が浅く、西条、堀沢に今一歩というところでした。

経験者ならラケットワーク(例えばドロップショットとロブ)で何とかこなせる場合もありますが、球歴の浅い場合は急に角捨って相手コートに入れることが出来れば、相当なところまで行きます。例えば女子の三村の場合がそうでした。そのためには日常のテニス以外のトレーニングが非常に物をいってきます。スタミナをつけるためのランニングなどはそのいいトレーニングになるでしょう。

6. 混合ダブルス

2回戦進出	桜井・桜井, 中根・中根, 米沢・山口 筑紫・福島, 米田・小林和, 杉山・栗原 宮崎・宮崎
準々決勝進出	佐藤・小林紀, 米田・下谷, 本保・藤野
決勝進出	武谷・武谷
優勝	武谷・武谷 (6-2 / 6-3) 坪谷・坪谷
三位	石川・栗原 (6-1 / 6-2) 原・光本

この種目は市民テなればこそと思われる種目です。日常の和気あいあいの雰囲気そのまま表われそうです。とはいっても出た以上勝ちたいのは人情です。それで混合の場合やはり男子の果敢役割はどうしても大きくなります。その典型が石川・栗原でした。しかしあの場合石川が栗原にボールにされるななどと試合中にアドバイス(?)していたなどは勝ちたいためには手段を選ばない態度で決してほめられた等ではないでしょう。もし女子の方にボールを取らせたくないなら、男子が出来ただけ女子にボールのいかないうような戦術をとるべきです。しかしこんなことはなかなか出来るものではなくて、結局は女子がねられることとなります。これは仕方のないことで、女子もそれを何とかしようと努力してこそ混合の面白味もあろうというものです。混合における女子は決して人形ではないのです。ダブルスの場合はお互いに助け合ってこそ楽しいゲームが出来るとし、これが勝にもつながっていくのです。

以上市民テのテニスもまだまだ学ばねばならないことが多々ありますが、石の上にも三年といえますように三年は辛抱することが必要です。そして5年、10年と練習していくなかで自分のテニスをつくり上げていくよう努力しようではありませんか。前途は洋々たるものです。

最後に全日程を通じてコート整備・後片付けを積極的にして下さった市民テの諸氏に深く感謝します。

私とテニス (連載13) 福山 肇

「ずいぶん黒い顔しているネ」
 「テニスのせいだよ、きのうは天気が良かったからネ」
 「かなり熱を上げているネ」
 「市民クラブの雰囲気がいいんだよ」
 「市民クラブって何だい」
 「テニス歴50年以上という人から中学生まで200人以上の老若男女が市営コート借りて定期練習をやっているんだよ」
 「定期練習？」
 「そう。土曜日5時間、日曜・祝日は朝6時から正午まで定期練習。クラブの中で上手な人達がコーチを引き受けてくれる。第1コートはサーブの練習、第2コートはボレー、第3はストロークとかネ。初心者には専用コートが割り当てられていて、徹底的にストロークの基本をたたき込まれるヨ。テニスマナーも厳しく指導してくれるしネ。私もこの初心者コースに毎回必ず出席したヨ。土曜日は会社を有給休暇で休んでネ。去年の8月に市民クラブに入会して、その年5ヶ月間に40回参加したネ」
 「何が理由でテニスを始める気になったの？」
 「潜在的にテニスに対する憧れがあったのは事実だが、市民クラブを知ったのは全くの偶然だったヨ。近くの知人が運動公園コートでテニスをやっていたのを女房が聞いていたので、どうやればコートを使用できるか聞きに出かけた訳サ。その日が市民クラブの定期練習日で、後期の入会受付中だった。その日、市民クラブ会長に会えたのが幸せだったヨ。その場で入会申込みを認めてもらえたからネ。その日から、君も知っている通り、テニス狂の始まりだよ」
 「200人以上の会員をまとめていくのは大変だろうネ」
 「やはり会長の統率力がものを云っているんだヨ。組織がしっかりしててネ。初心者スクールの運営を含めてクラブのテニス技術向上をめざす技術部、月1回の機関紙を発行している広報部、地域クラブを統合している協議会組織など、一会員として誇りに出来るクラブ運営だね」
 「会社のクラブとはかなり違うようだね」
 「そう。まず、一番うれしいことは休日に会社を忘れてテニスに熱中できるということだね。サラリーマンの宿命というか都会の生活では、遊びも会社を離れては普通成りたないだろう。どこか旅行するにしても会社の保養所、ゴルフに行くにも同僚と一緒に、夜の一杯も会社の近くでという具合で、会社の延長が多いネ。しかし、市民クラブは違うんだネ。会社とは全然関係ないんだネ。会社という管理社会から解放されて休日を通り越せる。このような市民クラブの存在は、これからの理想の姿だと思うよ。このような組織の整った活動的なテニスクラブはまだまだ数少ないのじゃないかね」
 「会社以外の人々を識ることは自分の発想を広げるのにも役に立つしネ、夫婦で会員になっている人達も多いヨ」
 「君の話を聞いていると、何だか東村山に住みたくなって来たヨ」
 「是非、引越して来いよ」
 「ところで、明日の土曜日テニスをやりに来ないか」
 「悪いけど遠慮しておくヨ、市民クラブは近いし、楽しいからネ」

(ある日の社員食堂における会話)